F108

ベトナム農民トレーナーネットワークによる
参加型農業安全衛生改善の広がり川上 剛¹、氏田 由可¹、小木 和孝²¹ILO アジア太平洋総局、²労働科学研究所

はじめに：ベトナムは農業の近代化と農民の安全衛生改善に力を入れている。ILO ではアジアにおける参加型トレーニング方式の広がりについて、WIND (Work Improvement in Neighbourhood Development) 方式参加型プログラム¹⁾を用いた農民安全衛生改善プロジェクトを実施してきた。農民自身をトレーナーとして養成し、農民トレーナーが他の農民をトレーニングすることで効果的な安全衛生活動の広がりを確認してきた。方法：ベトナムの3省1市から各1農村をパイロット地区として選び、WIND 方式参加型プログラムを用いて各村で20人ずつの農民トレーナーを養成した。農民トレーナーの養成は各省市における労働局、保健局、農業局、農民組合、女性組合により構成されるプロジェクト委員会が実施した。農民トレーナー養成コースは4日間のプログラムからなり、前半の2日間はアクションチェックリスト実習に続いて、6つの技術セッション(運搬と移動、作業姿勢、機械と電気の安全、作業環境と有害物のコントロール、福利施設と作業編成、改善の実施プラン)を地元改善事例の提示とグループ討論を中心に実施した²⁾。後半の2日間では参加型トレーナーとしてのスキル習得のために、リスクアセスメントツールとしてのアクションチェックリストの有効性、低コスト改善の進め方、ファシリテータ(側面支援者)としてのトレーナーの役割、フォローアップ手法に焦点をあてたグループワークを実施した。また、実際にトレーナーが自身の近隣の農民の家を訪問して1時間程度(アクションチェックリスト実習と1技術セッション、参加者は5名)で実施する「ミニ WIND トレーニング」を試行した。結果：養成された農民トレーナーは各自のコミュニティで「ミニ WIND トレーニング」を実施した。フォローアップの結果、試行期間の3ヶ月間に計636回のミニ WIND トレーニング

が、農民トレーナーによって実施され、603名の農民がトレーニングを受けた。また、トレーニングに参加した農民自身のアイデアにより地元の資源を用いて低コストでできる4,196の改善が実施された。その内訳は、運搬と移動1039例、作業姿勢788例、機械と電気の安全419例、作業環境と有害物のコントロール942例、福利施設と作業編成963例であった。考察：草の根の農民自身のイニシアチブに焦点をあてることで、行政による安全衛生サービスが届きにくい農業での実地的な安全衛生活動が実施できた。小木ら³⁾が示してきたように地元主体で実施できる低コスト改善手法と、自らの安全・健康リスクを把握し具体的な改善案作成をサポートできるアクションチェックリストの活用が重要であった。さらに、プロジェクト地区において、労働局、保健局、農業局が農民組合、女性組合と共同で支援委員会を作成し農民トレーナーへ継続的アドバイスを提供するサポート体制を構築したことが、WIND トレーニング活動の継続性に役立った。今後、さらに多くの農民トレーナーを養成し彼らのネットワークを通して自主改善活動の継続を支援する予定である。

参考文献：1. 川上剛、トンタット・カイ、小木和孝(1999) ヴェトナムメコンデルタ農村における住民参加型労働・生活改善プログラム(WIND)の開発と実践、労働科学75: 51-63 2. Kawakami T. Khai T, Kogi K (2005) WIND Manual Asian Version. ILO, Cantho Centre for Occupational Health and Environment (WIN-ASIA アジア作業改善ネットワークウェブ www.win-asia.org よりダウンロード可) 3. Kogi K, Phoon W, Thurman E (1988) Low-cost ways of improving working conditions: 100 Examples from Asia. ILO. (本プロジェクトはILO/Japan マルチバイプログラムの資金援助を得ている)